


# 『明日の記憶Ⅱ』

葉形亜樹子チェンバロリサイタル2023



## 今を生きる邦人男性作曲家を中心に

2023年11月17日(金) 18:15開場/19:00開演

ムジカーザ  MUSICASA

全自由席 一般 4000円(当日 4500円)/学生 1000円

曲目 伊藤康英「ルイ・クープラン氏を模した古典組曲」2023 委嘱世界初演  
夏田昌和「物想いの午後と気晴らしの体操」2023 委嘱世界初演  
柿沼 唯「6つの前奏曲」2013 より  
吉川和夫「12の前奏曲」1994 より  
間宮芳生「かぜのしるし〜オッフエルトリウム」2006 より  
ルノー・ガニュー「4つの芭蕉の俳句」2007

W.バード「パヴァーンとガリヤード」「ファンシー」16c.  
ルイ・クープラン「フローベルガー氏を模した前奏曲」17c.  
フランソワ・クープラン「ガルニエ」1713  
他

[チケットお申込み]

Yahoo パスマーケット  
(右記QRコードを読み取ると  
サイトへアクセスできます。)



[お問合せ] 音楽事務所アシスト

Tel : 03-3304-9250 Mail : office\_assist@ac.auone-net.jp  
HP : <https://www.office-assist.jp/>  
後援 : 日本チェンバロ協会



「コペルニクス気象変動サービス」のデータを受け、国連は『地球沸騰化』を発表した。この生誕550年のポーランド人地動説学者もさぞ驚いているだろう。世界の多くの地点で観測史上最高気温が日々更新され、連日の「命に危険のある暑さ」への注意喚起も聞き飽きた。自然災害も後を絶たず地球がこれからどんな未来を迎えるのか、ターニングポイントに来ているのに間違いはないだろう。常に楽観的だったはずの私にもさすがに不安の波が押し寄せる。人間は思いの外弱いのだ。この肉体も精神も。しかしその弱さの故に愛すべき存在となっているのは間違いない。溶けそうな脳でぐるぐると考えたところで、結局私には音を紡ぐことしか出来ないと開き直る。それもこのとても小さな音しか出ない楽器を使って。。。さあ、それならこの強い太陽エネルギーを逆に味方につけてしまおう。

そんな日々の中でこのプログラムは組まれた。去年の「女性作曲家特集」に対し、今年は現代日本の男性作曲家にスポットライトを当てる。去年の『明日の記憶』第1回を聴かれて新曲創作に手を挙げて下さったお二方に心より感謝したい。今この瞬間に現在進行形で音が生まれていると思うとワクワクする。対する「歴史を背負った」音達の布陣は、没後400年を祝うイングランドの至宝ウィリアム・バードを始め、フランスのクーブラン一族等、盤石に整えた。晩秋のひとつき、皆様と再び新たな時空を共有できることを、今から首を長くして待ち望んでいる。

2023年8月2日 満月、猛暑下の東京にて 栞形亜樹子



撮影：林宮代種

## 栞形亜樹子 Akiko KUWAGATA

東京藝術大学附属高校、同大学作曲科を経てDAAD給費留学生としてドイツへ留学。北西ドイツ・デトモルト音楽院、シュトゥットガルト芸術大学でチェンバロ専攻。国家ソリスト・ディプロム取得。1990年よりフランス、パリへ移りセルジー・ポントワーズ国立音楽院、ショーモン市立音楽院でチェンバロ、通奏低音の講師を務める。日本文化庁在外派遣研修員としてイタリア、スペインで研鑽を積む。2000年に17年間の欧州滞在の後帰国、東京を中心に自由で多様な活動を行っている。W.デューリンク、K.ギルバート、R.アレッサンドリーニにチェンバロを、O.パイユ、J.L.ゴンサレス=ウリオルにオルガン

を師事。1986年ブリュージュ国際コンクール1位なし2位、その他パリ、ライプツィヒの国際チェンバロ・コンクールで上位入賞。2018年フランソワ・クーブラン『クラヴサン奏法』新訳を全音楽譜出版社より刊行。音律に関する論文も執筆。A.コレリなどの通奏低音のレアリゼーション楽譜なども出版している。現在、東京藝術大学非常勤講師、松本市音楽文化ホール講師。dream window TreeレーベルよりJ.J.フローベルガー、J.S.バッハ、ルイ・クーブランの4ソロアルバム(dw20001~6)を2017年以降ハイレゾ世界配信開始、他にもコジマ録音、マイスターミュージックより室内楽参加CDも発売されている。

東京都渋谷区西原3-33-1  
小田急線・東京メトロ千代田線 代々木上原駅  
東口より徒歩2分

